

もぐら会チャーターメンバー

小林 貢 パスト会長

今日は「もぐら会の活動について」演題を戴きましたので、もぐら会の発足当時について、私の知ることを語ってみたいと思います。

1985年（昭和60年）米内禎一会長の時、もぐら会が発足して今年で25年目を迎えます。我が北ロータリークラブは趣味の会としては、囲碁クラブがあったそうです。私が入会当時はマージャン大会がありました。マージャンをやらない人は、カルタをやり一夜を楽しんだものです。マージャン大会では満貫賞は早いもの勝ちで十本ぐらいあり、競って取り合ったものです。スポーツ例会で室内ホッケー競技を開催、汗をかけた等思い出があります。もぐら会が出来るまでは、年に春と秋の二回ほど親睦ゴルフ大会が開催されておりました。もぐら会の初代会長は梯二郎先生でした。当時年間賞として大きなカップが会長から寄贈がありましたので、その立派なカップ争奪で競ったものです。発足当時の会員は20名前後でしたが、ゴルフに興味を持つ人は年会費を戴いて、当時緑ヶ岡のゴルフ練習場で特訓をしたものです。その時始めたのがベイクラブに移籍した漆崎君、葎本君、成田君らが今でもやっています。今移籍の話をしてしまいましたが、平成8年坂本ガバナーの時代にベイRCが誕生し、もぐら会の会員の半数がベイクラブに移籍になり、会長も梯先生から坂本先生にお願いし他界するまで会長を務めて戴きました。ベイクラブと別れた時は、コンペも10人以下の一桁になり寂しくなりました。現在は30人の会員がおりまして、先日5月5日本年第一回目のもぐら会の例会が10名の参加で行われ、坂入君が優勝し、佐渡君が準優勝を勝ち取りました。もぐら会も平成17年11月に20周年を記念して、九州熊本方面に遠征に出かけました。ゴルフをやる人10名、観光する人5名で、馬刺しやうな重がとても美味しかった事等、想いで深い楽しい旅行でありました。最近ではゴルフに興味の無い人でも、石川遼君の活躍はお聞き及びの事と思いますが、彼は15歳でプロの競技で優勝して、規定により翌年プロになりました。先月の中日クラウンズの試合で58というスコアで優勝し、世界主要ツアー最小スコア記録を成し遂げ、ギネス認定を受けましたが、15歳の最年少優勝記録に続いて二回目の認定です。彼は今あの爽やかさでコマーシャルに引っ張りだこです。そんな話題の中でテレビ観戦をするようになったという人、機会があればやってみたいなどと思っている人、それから滅法ゴルフを愛する人、それぞれ立場の違う人達の集まりですが、私のゴルフ歴40年の中からこの素晴らしいスポーツについてお話をいたしました。

さて、ゴルフはイギリスで発祥した紳士のスポーツとして、広く世界に広がって行きました。歴史を語



りだと、足立PDGのほうへお任せしなければなりませんし、今日は時間がありませんので割愛致します。ゴルフにはルールとマナーがございますが、殊スポーツとなると物凄く幅があります。陸上・水泳・野球・サッカーからラグビー・バスケット・バレーボールやスキー・スケートの冬季競技、日本的には柔道・剣道・相撲など上げれば切りがありません。どうでしょう、今言った競技の中で審判のいない競技がありますか、ところがゴルフの競技だけは審判がありません。プレーの中で生じた諸々のトラブルは、ルールに則り全て自分でジャッジしなければなりません。たとえば池に入ったら1打ペナルティを加算しなければなりません。白い杭から外に出るとOBと言って、打ち直した上、2打罰を加算しなければなりません。どうしても打てない処にある場合、2打罰を払って打てる処へ移動してもよろしい等、ルールに則り自分でジャッジしながら、プレーを進めていきます。競技には個人の能力の差に応じハンディキャップを設けて競います。ゴルフルールのほかに最も重要視しているのがマナーです。紳士の競技というだけあって、マナーは徹底して先輩から教育されます。たとえばティーグラウンドでは、プレーヤーが打つ構えをしたら私語をしてはならない、自分で打って林に入ったらクラブを2・3本持って走れとか、バンカーに入って打ち終わったら足跡をきれいにしなす事等、きりがいい位マナーには気を使います。マナーとは他人に迷惑をかけない、思い遣る、気遣うなど基本にあります。私はこのゴルフを通して、やっていい事、悪いことの判断や、他人に迷惑をかけてならない等、知らないうちに自分の生活の中で重要なジャッジをしながら、生活をしている様な気がします。最後にゴルフに少しでも興味のある方は申し出てください。もぐら会会員が優しく厳しく指導させて戴きます。

平澤利秀会員（H21.4.22入会、親睦家族委員会）

もぐら会に入ってまだ一年なのですが、感想を述べたいと思います。

4月にロータリークラブに入会して、ほぼ同時にもぐら会にはいりました。感じたのは想像以上に会員のゴルフのレベルが高くて、優勝もしていませいし、ドラコン、ニアピンを取った記憶がありません。正直ゴルフには一寸自信はあったので、優勝目指してプレーに臨んだのですが、先輩会員のベテランの味

に今だに太刀打ち出来ていません。今年一度だけ優勝したいと練習して頑張っています。残念な事として、参加人数が少ないという感想を持っています。ゲストが入らして始めて体裁が整った状況で、私がこの様な事を言うのはなんですが、会員が30名ほどおりますので、出来るだけ参加して盛り上げて行きたいものと感じました。最後になりますが、四つのテストにあるように、好意と友情を深める精神で、盛り上げて行きたいものと思っておりますので、皆様宜しくお願いいたします。



百枝信二会員（H21.4.22入会、親睦家族委員会）

5月5日開催の第1回もぐら会

優勝を目指して連休中の毎日、平田会員とプレーを重ねトップコンディションに持って行ったつもりでしたが、104という恥ずかしいスコアにも関わらず2位という結果でした。プレー前に萩原先輩に「ももちゃん、ピン・ポン・パンやるべ」と言われ、OUT・INそれぞれ7打、トータルで14打のハンデを貰いプレーしました。結果、萩原先輩のスコアは本人の名誉の為に申し上げられませんが、グロスで普通に勝利してチョコレートを頂戴しま



した。「言い出しっぱは負ける」という言葉の意味を実感した次第であります。ちなみに、表彰式終了後、萩原先輩の「ももちゃん、もうハーフやるべ」の掛け声の下、田中先生を交えてハーフプレーしましたが、そちらでもチョコレートを頂戴しました。プレー終了後、ゴルフ5へ駆け込みチョコレートを原資に、FWを購入させて頂きました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

オブザーバーとしての参加

私が所属する野村證券では、昨年ゴルフ同好会を作りました。現在メンバー9名で昨年からゴルフを始めた社員もおりますので、スコアは80台前半から140台の者まで幅広く存在しております。もぐら会には数名オブザーバーとして参加させて頂いておりますが、実は参加条件として「108をコンスタントに切れるもの」という条件を設けております。始めたばかりの者にとってもぐら会は「マスターズ」のような存在であり、ゴルフ上達の為のモチベーションになっております。ちなみにもぐら会で獲得した賞金は、支店内の表彰会で使わせて頂いております。さて、前置きが長くなりましたが、もぐら会の今後という観点で私が考えている事を2点申し上げます。

ゴルフ以外のイベントについて

現在、もぐら会には40名近い会員がおりますが、実際ゴルフをなさらない方や千田さんのように「出ると優勝するから出ないようにしているんだ」という方もいらっしゃいます。この様な方々も毎年年会費1万円を払って下さっており、もぐら会の運営にご協力いただいている訳ですが、この様な方々も参加出来る様な企画を考えて行かなければ成らないと思っております。

オブザーバーの参加呼びかけ

現在のもぐら会は、毎回3～4組の参加人数が15名前後というのが実情であります。お仕事でスケジュールが合わなかったり、体調が悪かったり、メンバーでありながら参加できないという方々が毎回いらっしゃいます。その様な時にもぐら会を盛り上げてくれるのがオブザーバーの存在です。このオブザーバー制度があるおかげで、私はロータリー以外の方々とも知り合いになる事が出来ております。さて、私のアイデアとして現在思っている事は、オブザーバーの参加をロータリークラブの会員増強に繋がられないかという事です。オブザーバーとしてのもぐら会への参加により、釧路北ロータリークラブのメンバーが如何にユニークであるかをご理解頂けると思いますが、ゴルフは性格の出るスポーツですので、相手の人となりも理解する事が出来ます。また、罰金として徴収されるお金が寄付に使われている事を知って頂く事によって、ロータリーの素晴らしい精神もご理解頂けるのではないかと考えております。以上、ゴルフを楽しみ、親睦を深め、一方罰金と言う名前の寄付金を集めるための活動を行う現在のスタイルに加え、会員増強という新しいコンセプトをもぐら会に加える事を提案させて頂き、私の話を終わらせて頂きます。ありがとうございました。